夏に伸びる子どもの力

第２章

小さな命を大切にはぐくむ力

子育て体験「ハロー！ベイビー！」

赤ちゃんの小さな温もりと触れあい、お母さんの大変さを体験して、親子の愛情と命の大切さについて考える

赤ちゃんとの触れ合いから命に対する愛情をはぐくむ

思春期の子どもたちが、妊婦の疑似体験や赤ちゃんとの触れ合いを通して、親子の愛情や子育ての楽しさ、命の尊さなどについて考える、子育て体験「ハロー！ベイビー！」。町保健福祉センターが主催し、甲佐中学校（吉田明博校長２６５人）の生徒19人が参加。中学生たちは、お母さんの子どもへの愛情について考えました。

お母さんの疑似体験を通し子育ての大変さを体感する

体験学習は、赤ちゃんを持つお母さんの疑似体験と、10か月児教室に訪れた赤ちゃんとの触れ合いの２部構成。

中学生たちは、実際に赤ちゃんと触れ合う前に、疑似体験を受講。保健師の指導の下で、妊婦体験と赤ちゃんとの接し方体験を実習しました。

妊婦体験では、重さ約10キロの妊婦体験シミュレーターを上体に装着して、体を自由に動かせない妊婦の大変さを体験。接し方体験では、赤ちゃんの人形を使って、抱っこや着替え、おむつ交換などを実践し、赤ちゃんがどれほど小さくて弱い体であるかを学びました。

赤ちゃんと触れ合って子育てするお母さんの大変さが分かりました。

松永 愛理さん
〔中横田区〕

小さな子どもと遊んで触れ合えたことが、心に残りました。
将来は、優しいお母さんになりたいと思います。
この体験で、子育てをすることは、とても大変なことなんだな、と実感しました。

酒井 光さん
〔下横田区〕

赤ちゃんを抱っこしていたら眠ってしまって、かわいいなと思いました。
私は、子どもの目線で接してあげられるお母さんになりたいです。
お母さんも子育てが大変だったのだろうな、と思いました。

赤ちゃんの人形を使って、子育ての疑似体験。約10㌔の妊婦体験シミュレーターで、妊娠10か月時のお腹の重さを体験。保健師から、抱っこや着替え、おむつ交換などのやり方について習って、一人ずつ挑戦する

保健福祉センターでの10か月児教室に合流し、身体計測する赤ちゃんの着替えを手伝うなど、子育ての疑似体験で学んだことを実践する

おもちゃなどを使って赤ちゃんと触れ合うことで、小さな命をはぐくむ大切さを学ぶ

赤ちゃんの愛らしさに接して子育ての喜びを感じる

体験学習を受講した後、中学生たちは10か月児教室に合流して、赤ちゃんと対面。着替えの手伝いや抱っこ、おむつ交換を実際に体験しました。

中学生たちは、大きな声で泣き出したり、自由に動き回ろうとする赤ちゃんたちに四苦八苦。おもちゃで一緒に遊んだり、優しく抱っこしたりして触れ合うことで少しずつ慣れて、笑顔で赤ちゃんと接することができるようになりました。また、お母さんたちから出産や子育てについての体験談を聞き、子育ての喜びと苦労について考えました。

最後に、体験学習を踏まえて、自分を大切に育ててくれたお母さんへ、心を込めて感謝の手紙を書きました。

体験学習に参加した甲佐中学校の生徒と、10か月児教室に訪れた赤ちゃんとお母さん